



読書月間

今月は本校の「読書月間」です。中央玄関の掲示板には**図書委員の子どもたちのおすすめの本**が低学年向け・中学年向け・高学年向けに分けて紹介されています。さらに、子どもたちが普段は自分あまり手にしないジャンルの本にも触れさせる目的で「**読書でビンゴ!!**」という取り組みも行っています。

11日(水)12日(木)には「**ハーモニー**」という**ボランティア団体のみなさんによる読み聞かせ**が各教室で行われ、子どもたちはお話の中に引き込まれながら聴いていました。17日(火)には体育館で**図書集会**が行われます。集会では毎朝、一生懸命に練習している図書委員の児童が大型紙芝居を全校生に読んでくれます。

始めてから3年目を迎える、毎朝8時30分から40分までの10分間の**全校一斉の朝読書**も定着しています。図書室の整備も一層進み、本校の子どもたちの読書環境は随分と整ってきています。

読書の効果

- 集中力がつく
- 想像力・感受性が豊かになる
- 言語能力が発達する
- 人の気持ちがわかるようになる など

読書は主に文字によって情報が脳に入ってきますので、そのときの人物の心情や顔の表情、周囲の状況や景色など、そこに広がる世界を読者が想像して自分の中に取り込んでいきます。このときに感じる力や想像する力、考える力が自然に養われていきます。

テレビや映画などの映像メディアは大量の情報を短時間で得るにはいいのですが、想像したりする余地は読書に比べ少なくなります。ここが読書と違う点です。さらに**読書はたくさんの文字表現にふれることで自分の持っている言葉の数が増え言語表現能力が豊かになります。つまり、自分の思っていることをいろいろな言葉で表現できるようになります。**

また、人の心についても想像し、考えるようになるので、「こんなことをしたり、言ったりしたら相手はいやだろうな、悲しいだろうな。こうやって励ましてあげたり、ほめてあげたりすれば嬉しいだろうな、やる気になるだろうな。」と思えるようにもなります。

「**読書月間**」を機会に、子どもたちがより一層読書の楽しみを知り、1冊でも多くの本を読みたいと思えるようになってくれることを願っています。最後に本のカバーかけや破損ページの修繕など子どもたちの読書環境の改善のためにいろいろとご尽力いただいています本校の図書ボランティアの方々には、この場を借りてお礼申しあげます。